

## PISSA読解力意識



文章やイラスト、図表など複数の資料から情報を読み取り、根拠を示して自分の考えをまとめる内容が増えた。

経済協力開発機構（OECD）の国際学習到達度調査（PISSA）で問われる読解力を意識し、情報比較・分類したり、原因と結果を整理したりする方法を図表などで手厚く盛り込まれた。

## 海面上昇データ扱う



データを整理・分析して活用し、身近な問題の解決につなげることを意識した内容が目立った。

新たな高校から中学3年生に移った「箱ひげ」の学習では、猛暑日やインターネットの通信速度など、身近な題材が取り上げられた。

「考え、議論する道徳」の定着を図り、すべての教科書で巻頭に授業の目的や進め方を解説するページが設けられた。

いじめとSNSのトラブルなどについて考える「情報モラル」は全社が取り上げた。国連が2030年までの達成を目指す「SDGs（持続可能な開発目標）」など、現代的な課題についても記述が増えた。

議論の時間を確保するため、読み物の分量を減らしたり漫画で読ませたりする工夫もみられた。生徒の評価をしやすいうように、生徒が学習の記録を残す切り取り式のシートを付けた教科書もあった。

# 身近な題材 探究心育む

### 「最後の晩餐」発言想像



対話を通じて鑑賞を深める工夫が目立った。

レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」の上にトレーシングペーパーを重ね、登場人物の発言を想像して書き込んだり、尾形光琳の「燕子花図屏風」を屏風の形に折って鑑賞したりできる教科書もあった。

問題を解決する手段として、デザインを活用するページが充実した。パラスポーツで使われるチェアスキーの形状の工夫や、今後、南海トラフ地震が起きた際に予想される津波の高さを動物の体の大きさで表したサインも紹介された。絵画の技法や道具の使い方をQRコードを通じ動画で示した例もあった。

### 漫画で読ませる工夫



いじめとSNSのトラブルなどについて考える「情報モラル」は全社が取り上げた。国連が2030年までの達成を目指す「SDGs（持続可能な開発目標）」など、現代的な課題についても記述が増えた。

議論の時間を確保するため、読み物の分量を減らしたり漫画で読ませたりする工夫もみられた。生徒の評価をしやすいうように、生徒が学習の記録を残す切り取り式のシートを付けた教科書もあった。

### 「最後の晩餐」発言想像



対話を通じて鑑賞を深める工夫が目立った。

レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」の上にトレーシングペーパーを重ね、登場人物の発言を想像して書き込んだり、尾形光琳の「燕子花図屏風」を屏風の形に折って鑑賞したりできる教科書もあった。

問題を解決する手段として、デザインを活用するページが充実した。パラスポーツで使われるチェアスキーの形状の工夫や、今後、南海トラフ地震が起きた際に予想される津波の高さを動物の体の大きさで表したサインも紹介された。絵画の技法や道具の使い方をQRコードを通じ動画で示した例もあった。

### プログラミング 発展



技術では、新年度から小学校で必修化されるプログラミング教育を発展させた内容が全社の教科書に盛り込まれた。

現在地から目的地までのルートを検索できるアプリや、災害時の避難ルートをスマートフォンなどで見られる「防災マップ」を取り上げた例もあった。



プログラミングを扱った技術の教科書関わりの内容が充実したほか、クレジットカードの仕組みなどお金の管理に関する内容が加わった。

### 曲ができた経緯 紹介



社会の中での音楽の役割を考えさせる教材が充実した。

音楽に関わる仕事として、シリア難民キャンプでの音楽教育支援なども取り上げられた。岩手県に伝わる鹿踊など、全国各地に伝わる郷土の芸能を動画とリンクさせたページも登場した。

東日本大震災の復興支援ソング「花は咲く」や、世界人権宣言の65周年を記念して2013年に京都府人権啓発イメージソングとして作られた「世界がひとつの家族のように」は、曲ができた経緯とともに掲載された。アイドルやアニメソングなど日本のポピュラー音楽の系譜をCDのジャケットとともに掲載した例もあった。

### 感染症の予防策示す



日本人の死因1位となっている「がん」が、全教科書で取り上げられ、予防法や早期発見の重要性などに関する記述が増えた。

感染症については、新型インフルエンザなどを想定して、全社が予防策などを扱い、「せきエチケット」をイラスト入りで示した教科書もあった。

LGBT（性的少数者）は「性の多様性」などの表現を使って扱う例が目立った。

スマートフォンの普及に合わせ、自分の画像を送信するよう要求される「自撮り」被害や電車のホームなどでの「ながらスマホ」の危険性を指摘する記述も増えた。

# 空港やカフェの会話

**英語 ABCDE HIJKL**

新学習指導要領で、全6社でみる、1年間で学ぶ。600〜700語の単語を学ぶ。単語数は、1600〜2000語。これまでの1.5倍の単語量。た「仮定法」などの文法事項が中学の学習内容で学ばれてきたこともあって、「すべて教える」のではなく、「新しい教科書で扱う単語」を学ぶ。



- 国語** 防災に関する資料を読み、防災訓練の案内をつくる
- 数学** 関数で、スキージャンプのジャンパーが助走路を滑った時間と距離の関係を考える
- 社会** 「社会集団の中でのきまり」の単元で、マンションでの夜の騒音問題について解決策を話し合う
- 理科** 「仕事とエネルギー」の単元で、ジェットコースターを例示し、位置エネルギーや運動エネルギーについて考える
- 英語** 「関係代名詞」を学ぶページで、海外で人気の日本アニメ「キャプテン翼」などがテーマに

配する教員が多く、単語数は抑えた。(教科書全体の編纂者)という。

# 主権者教育 充実図る

**社会**

選挙権年齢が18歳以上に引き上げられたことに伴い、主権者教育の充実が図られた。投票率の低下や「一票の格差」の問題が顕著となり、国会議員やジャーナリストへのインタビューを掲載したりするなど、生徒の関心を高める工夫が目立った。情報を正しく活用する

# 「自然災害」各学年で

**理科**

火山の噴火や地震、台風といった自然災害を各学年で取り上げ、防災意識を高める活動が盛り込まれた。防災と関連する活動も多かった。東日本大震災に加え、30年以内の高い確率で起きると予測されている南海トラフ地震の特集ページを設けた例もあった。

文部科学省は5月26日、6月18日、東京都江東区の教科書研究センターで新しい教科書や検定委員書などを公開する。札幌市、水戸市、岐阜市、和歌山市、高知市、富岡市でも6〜7月に順次、公開する。

## 「再申請不可」初の適用 不合格教科書

今回の検定では、申請された10教科計15点のうち、合格は10点、不合格4点。審査理由での申請取り下げがなかった。

審査には、文部科学省の諮問機関「教科用図書検定調査審議会」が各教科の文章や図表に生徒が誤解するおそれのある表現「学習指導要領で限って扱いが不適切」といった意見を付け、それを参考に、教科書会社は修正する。審議を経て、文科相が合格を決定する。

いったん不合格となっても、内容を修正し、検定年度内に再申請することが可能だ。

だが、2016年度から「欠陥箇所」を指摘された場合、年度ごに再申請できなくなってきた。今回、不合格の4点のうち、自由社の社会(歴史)とエスエムの技術の2点が初めてこの適用対象となった。自由社の

社会(歴史)は「新しい歴史教科書をつくる会」のメンバーが執筆しており、不合格の理由として「教科書の技術も一度、不合格になった。だが、欠陥箇所がページ数の1.2倍未満だったため、修正して再申請し、合格した。」

教科書検定は原則、4年に1回の周期で実施される。小中学校はそれぞれ、今年度の検定が同じ年度に「発行」され、高校は対象となる学年で3回目の検定を実施される。

教科書の「編集」「検定」、教育委員会が使用する教科書を選定する「採択」を経て、学校現場で使われることになる。